

アイキャンだより

2003年7月
第31号



特集 フィリピンと日本の絆を深める



フィリピンで交流を深める
スタディツアー



フィリピンの製作品販売を通して、
現状理解を深めるフェアトレード



住民の自立を支える活動

パヤタスの現状と医療支援の今後 伊藤 洋子 p.2-3

山村支援と子どもたちの教育環境 伊藤 洋子 p.4

スタディツアーでフィリピンを訪問して

野村 真衣、柳澤 霞 p.5-7

スタディツアー参加者募集

p.7

ボランティアさんの活躍を紹介！

p.8-9

東京でツアー勉強会を企画

高島 麻衣子

給食体験イベントを実施

東條 敏和

学校訪問授業に参加

伊藤 めぐみ

ツアー説明会・バザーに協力

希代 翔

事務局 新スタッフ・インターンの紹介

市川 恵、川岡 美穂 p.10

カードキャンペーン、協力者募集

p.11

ご協力者のご紹介

p.11

新規会員、会員継続者のご紹介

p.11

初心者のためのフィリピン講座(クイズ篇)

里村 京子 p.12

ICANの国際理解教育を学校で！

p.13

会員になってICANを支えよう！

p.14

ICAN (アイキャン) 特定非営利活動法人アジア日本相互交流センター

〒450-0003 名古屋市中村区名駅南 1-20-11 NPO プラザなごや2F

TEL&FAX (052)582 2244 E-mail: info@ican.or.jp ホームページ: <http://www.ican.or.jp/>

パヤタスの現状と医療支援の今後

伊藤 洋子

マニラ首都圏北東部にあるパヤタスにはケソン市のゴミ集積場があり、ゴミがうずたかく積み上げられて巨大な山のようになっています。広さはおよそ8ヘクタール、高さは30メートルくらいあるのではないかと思われる、2つのゴミ山の周辺に経済的に貧しい人々がおよそ1万人暮らしているといわれています。

その内の2千人ほどの子どもから老人まで、男性も女性も、リサイクルできるゴミを回収し、換金することによって生計を立てています。ゴミを回収して稼げるお金は50ペソから200ペソ(110円から440円、1ペソ=2.2円<2003年5月末現在>)くらいで、一家が食べていくのにも事欠くほどのわずかな収入しか得られません。まだ食べられそうなゴミが捨てられている時は拾って食べることもあるそうです。



生活のため、ゴミ拾いをする人たち



ゴミ山の近隣にあるコミュニティの様子

ゴミ山周辺の環境は非常に汚染されていて、もともとはゴミ捨て場だった場所に家を建てて住んでいる人もいます。周辺の家はほとんどがゴミ捨て場から拾ってきた廃材で作られていて、中には土間に生活している人もいます。幼い子どもたちがガラスの破片などが一面に散らばった道をはだして歩いている姿をよく見かけますが、ケガをしてしまうのではないかと、とても心配になります。

ゴミの山は乾季(11月から5月頃)になると自然発火して燃えるので、大気汚染がひどく、周辺に住む住民の多くは気管支の病気で苦しめられています。また、雨季(6月から10月頃)になるとゴミの臭いがひどく食欲不振や偏頭痛を訴える人が増えます。

ICANがSALTと共同事業で行っているクリニックには、年間を通して、熱、咳、風邪などの症状を訴える人のほか、高血圧で血圧を測りに来る人、吸入器を使いに来る人などが多くいます。時々ではありますが、重病の人でもクリニックにやってきます。手術や検査が必要で、設備の整っていないクリニックでは対応できない場合は、近くの公立の病院に行ってもらふこととなります。しかしながら、近くとは言え、往復で100円くらいかかる交通費が払えないからとか、無料で診察してもらっても薬が買えない、手術代が払えないなどの理由で病院へ行かずに我慢してしまい、病気が悪化して、最悪の場合は治るはずの病気で死亡するというケースもあります。

先日、まだ1歳8ヶ月の赤ちゃんで栄養プログラムに参加している子が心臓に穴が空いていて手術が必要であるということが分かりました。この子はまだ歩くこともできません。母親は、子どもの手術が必要であることを知っていましたが、病院へ通う交通費も継続して工面できないし、手術代も支払えないからと、病院へ一度連れて行っただけで、その後何もしていませんでした。ICANで交通費などを負担するので、再び病院へ行くように母親に促したところ、やっと母親も子どもの治療に積極的になり、心臓病の専門の公立病院へ通いはじめました。今後、手術を受けることになっていますが、一日も早く元気になって欲しいと思います。

経済的に困窮した人がほとんどなので、栄養のある食べ物を十分に食べられないことから、栄養不良になる子どもたくさんいます。地域の未就学児童のうち、約30%が、栄養不良児です。生まれた時から栄養が足りないために、中には、脳や体の発育が不十分な子もいます。



栄養改善プログラム

栄養状態が悪い子は体も弱く病気になりがちで、病気になるとまた栄養状態が悪化します。まさに悪循環です。給食に参加している中には、父親がドラッグ中毒で無職、母親も結核で働けず、家にほとんど食べるものがないという家庭の子どももいます。そういう子どもたちにとっては、給食だけが唯一その日食べられる栄養のある食べ物だったりするので。



パヤタスの女性達のミーティング風景

今までは、現地のNGOのSALTとの共同事業で医療支援事業を行っていましたが、今後は医療プログラムもICAN独自で事業を実施することになりました。現在作業所で働いている女性達がもっとコミュニティのために貢献したいということで、ボランティアで無料診療活動や給食サービスの手伝いをするようになっていきます。自分達の力でコミュニティを改善していこうという、女性達の働きに期待が寄せられます。

パヤタスでの活動を支えていただく会員を募集しています。

パヤタスでの活動が大きく変わります。新しく看護師が常駐するケアセンターを設置。作業所の女性たちもヘルスワーカーのトレーニングを受け、ケアセンターとコミュニティをつなぐ活動に参加します。ICANは、住民の手で必要な医療をコミュニティ内に広げる活動を行っていきます。是非、会員として現地の活動を支えてください！

サンイシロはマニラからジブニーなどを乗り継いで5時間ほど北東へ向かったところにある山村です。雨季で豪雨の後などには水位が上がリジブニーが橋を渡れなくなると、町へ行くためには何時間も歩かなければなりません。ICANではそんな山奥に暮らす先住民族(ドゥマガット族)の住民組織のプロジェクトの支援を行っています。



電気も水道もガスもない農村サンイシロ



プレスクールで勉強する子ども

先住民族の子どもたちの通うプレスクール(幼稚園)の卒園式が4月に行われました。このプレスクールは今年度からアンティポロ市の識字教育プログラムの一環に組み込まれることになりました。そのため、今年はバランガイ サンホセの他のプレスクールと合同で卒園式が行われ、先住民のプレスクールからは5人の子どもたちが卒園しました。

ICANで支援していた奨学生のソリータさんが家庭の事情から高校2年生で退学し、この5月に地元の先住民の青年と結婚しました。ソリータさんはまだ18歳で、非常に熱心に学校に通って勉強していたので、この結婚を喜んで良いのか、非常に複雑な気持ちです。サンイシロの中でも特に山奥のタヤバサン地区から学校に通うのはさらに困難です。「教育の必要性すら理解していない人も多い」と、先住民のリーダーのアーニンさんは言います。タヤバサン地区の子どもたちにも学校へ通う機会を提供することが今後の課題です。



ハイスクールの子どもたち

今年の2月に先住民の住民組織 **MASAKA**が正式に協同組合として市に登録されました。会員は約100人います。これから、もっと先住民の生活が良くなるようなプロジェクトを行っていききたいとアーニンさんは意気込みます。ICANはこれからも、**MASAKA**の先住民による先住民のためのプロジェクトを応援していききたいと思います。

サンイシロでの活動を支えていただく会員を募集しています。

サンイシロでは、先住民の方々と話し合い、先住民自らが課題に気づき、必要だと思う活動を支援しています。未就学児童のためのプレスクールやハイスクール生のための奨学金など、地道な試みですが、着実に支えていききたいと思います。

2003年春のスタディツアー報告

2003年2月にサンイシロとパヤタスを訪問するスタディツアー、3月にパヤタスを訪問するスタディツアーを実施しました。日程は下記の通りです。

<2月の日程>

1日目 : 出国(日本からフィリピンへ)
2~6日目: サンイシロ訪問、住民との交流、活動見学
6~10日目: パヤタス訪問、住民との交流、活動見学
11日目 : 帰国(フィリピンから日本へ)

<3月の日程>

1日目 : 出国(日本からフィリピンへ)
2~6日目: パヤタスでの活動見学、住民との交流会、
一泊ホームステイなど
7日目 : 帰国(フィリピンから日本へ)

ツアーでは、パヤタスやサンイシロなど、フィリピンの現状に関するレクチャー、支援プログラムの見学、住民との交流会やホームステイ、参加者やスタッフとの意見交換会を実施しました。収入が充分ではない環境や、ごみ処分場に隣接して暮らすなど苛酷な環境で、暖かさやたくましさや失うことなく生活する住民の皆さんと接したこと、また彼らの自立を支援するスタッフも含めた参加者同士の意見交換は、ツアーに参加された皆さんにとって、大きな刺激となりました。

2月のツアーに参加した野村さんと、3月のツアーに参加した柳澤さんの感想を紹介します。

スタディツアーでサンイシロを訪問して

野村 真衣



フィリピンでの10日間は私にとってとても貴重な体験をする毎日となりました。このツアーの中で私は本当に多くのことを見て学び、考えることができました。

事前勉強会では、サンイシロやパヤタスの写真を見、実際に行った方の話を聞き、「神の子たち」のビデオも見て、大体の印象を持ちました。

しかし、サンイシロやパヤタスが実際にはどんな場所で、日々どんな生活が送られどんな支援が必要なのかを実感できずにいました。そして、実際に現地へ行って現状を自分の目で確かめたいと思いました。

実際に現地を訪れ、その光景を目のあたりにし、人々と触れ合うことで、日本で思い浮かべていた印象とは、全く違う実感を持つことができました。サンイシロの人々はとても暖かく私たち日本人を迎え入れ、いつも明るい笑顔で接してくれました。ここでの5日間は本当に楽しく、毎日が充実していました。

サンイシロのすばらしさはとても計り知れないものがあります。壮大な山々に囲まれ、あちらこちらで動物の鳴き声が飛び交い、景色をさえぎるものは何もなくどこまでも遠くが見渡せました。夜空を見上げるとそこには満天の星空が広がり、流れ星の光はとてもはっきりとみえ、自然のすばらしさを体で感じることができました。日本では、あまり子どもと触れ合うことのなかった私が、ここでは毎日、子ども達と遊び、一緒に走り回って汗を流しました。彼らの笑顔はとてもかわいく、純粋そのものでした。

サンイシロの人たちは本当に親切でやさしく、私たちの食事の世話、村のいろんな所へ案内してくれました。滝や山登りでは口笛を吹いたり、叫んだり、岩から飛び込んだりして、とても野性的でたくましく、その豊かな自然から育った生き生きとした姿が満ち溢れていました。そんな彼らの姿を見ていると、私達の生活と比べずにはいられませんでした。日本では、人間本来の生き方のすばらしさである、もっともっと大切な何かを忘れてしまっているように感じます。

ここでの彼らの生き方は、とてもシンプルで、日々の生活の中で忘れかけていた、根本的な心の豊かさを身にしみて感じることもできました。彼らの、心も体もたくましく明るく生きている姿を見ていると、本当に豊かな暮らしとは何なのかを、考えさせられました。

しかし、サンイシロでの農業を中心とした生活は、とても不安定であり、また経済的理由などから学校に行くことが困難な子どもも多く、就学率の低さなど様々な問題を抱えていることを知りました。今までの支援活動の中での変化を見ると、これまでにいろいろな苦労や努力があったのだと感じました。その中で現地スタッフの存在は必要不可欠なものであり、とても力強いものだと実感しました。



ツアー中、参加者同士で話し合うことが多く、皆さんの知識と経験の豊富さと、しっかりとした考えを持っている姿に感心させられ、たくさんの刺激を受けました。フィリピンと日本との歴史にも触れ、今まで自分の見えていなかった、多くの歴史を見直すきっかけにもなりました。地図でしか知らなかったフィリピンが少し身近なものに感じ、世界に視野を広げるきっかけにもなりました。

今回のツアーで、フィリピン国内に存在する格差やごみ問題、それに対する政府の考えや方針、支援と開発の意味とはどういったものなのか、ということに強く関心を持つようになったのは事実です。ここからもっといろんなことを勉強し、考えていこうと思います。そして、自分にも何かできることを探し、少しずつ意識を変えた行動をとって行きたいと思います。このツアーに参加できたことに心から感謝します。

本当にすばらしいツアーでした。



パヤタス・スタディツアーの報告

柳澤 霞

私は初めての海外旅行で、しかも出国日が米国のイラク空爆開始と重なったので、とても不安でした。きっと、フィリピンでは緊張が高まっていて何か事件に巻き込まれるのではないかと、思っていました。

でも、フィリピンは私が想像していたものとは違いました。フィリピン人はフレンドリーな人達ばかりで、目が合うだけで見知らぬ私に微笑んだり、声をかけたりしてくれました。私の未熟な英会話でも、私の目を見て真剣に聞いてくれました。特に、パヤタスの作業所で働くお母さん達は、いつも冗談を言って、笑っていました。そんな雰囲気の中で、私の不安はどこかに飛んで行ってしまいました。逆に日本であまり感じたことのない安堵感がありました。子ども達は初め、少し照れていましたが、すぐに私の横に磁石のようにぴったりくっついて離れなくなり、疲れを知らないのか、ずっと走り回っていました。

パヤタスツアーでは、元気一杯の子ども達との遠足もありました。場所は、ワイルドライフという公園です。子ども達はお洒落をしてジープに乗り込み、目をキラキラさせながら、騒いでいました。トンネルを通過して、パヤタスを出ると、さらにパワーアップしていました。こうやってパヤタスを出ることが、ほとんどないのだと思いました。今後、どれだけ子ども達が外に出られるんだろうと考えました。公園では、班ごとに一列になり、歩きました。班長のように、まとめ役の子がいて、迷子になることはありませんでした。移動中、道の横のベンチに皮膚の爛れた方がいました。戦争の被害者なのか、病気なのかわかりませんが、どっちにしろ、私達に責任があるような気がしてなりませんでした。

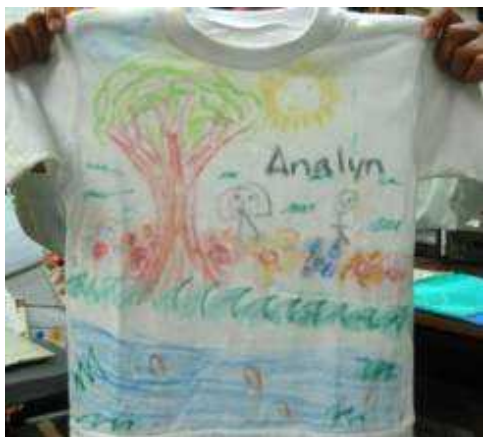
子ども達とは、公園内の動物を見にいきましたが、初めて見る動物ばかりなのか、孔雀やサル、蛇、魚に対して、口をポカンとあけて見入っていました。お菓子を食べた後の自由時間に、マリア像前で写真を撮ったり、ビーチバレーをしたり、鬼ごっこをしたり、Tシャツに絵を描いたりしてあそびました。子ども達のまっすぐな笑顔が私の目に焼き付きました。

周りの人達とみかけは変わりありませんでしたが、この子ども達がパヤタスに住んでいると知ったら、偏見の目で見られてしまうのかも、と思うと悲しくなりました。自由時間後に、日本からの贈り物が配られました。飛んだり跳ねたりして、皆大喜びで、友だちに見せあっていました。そんな光景に触れ、さっきまでの沈んだ気持ちはふっとんでしまいました。やはり、子ども達の元気は、私にとって何よりのカンフル剤です。



パヤタスの子ども達

子どもたちと一緒に描いたTシャツ



私は日本に帰ってからいろいろ考えました。毎日、パヤタスの夢をみます。絶対にこの貴重なスタディツアーでの体験を私は忘れません。このスタディツアーで、『友だち』と言ってくれた人がたくさんできました。私はその『友だち』がずっと幸せでいられるように何かしたいと思いました。同時に未成年でまだ学生の私の無力さを感じました。私は、学生だからこそできることをし、将来人の為に何かできる人間になりたいと思います。

スタディツアーでこのような体験をできたのは、たくさんの人達の協力があったからだと思います。ありがとうございました。スタディツアーの他のメンバーも伊藤さんもテスさんも棚橋さんもお母さん達も子ども達も松岡さんもみんな大好きです。

また、いろいろな人達に会いに行きたいと思います。

パヤタスを訪問するスタディツアー参加者募集！

2003年の夏(7,8月)も、フィリピン、マニラ首都圏ケソン市郊外にあるパヤタスゴミ処分場や近隣コミュニティなどを訪問し、住民の暮らしや国際協力を学ぶスタディツアーを実施します。7月のツアーは、国際理解教育のための海外研修も兼ね、パヤタスの子供達のために授業をしたり、帰国後に学校での授業に結び付けます。8月のツアーでは、子供達との交流会や遠足などふれあい重視の日程になっています。

ご興味のある方は、事務局までご連絡ください。



日程:A:7月25日(金)~31日(木)
(住民の暮らしを学び、国際理解教育に活かすための研修プログラム、発着空港は名古屋のみ)
B:8月22日(金)~28日(木)
(住民の暮らしや国際協力を学び、できることを考えるスタディツアー、発着空港は関空・名古屋・成田)
料金: 14万円
企画協賛:(特)アジア日本相互交流センター(ICAN)
受託販売:(株)トラベルステーション
主催:(株)ケイ・アイ・エス・インターナショナル

ボランティアさんの活躍を紹介！

ICANの活動は、多くのボランティアさんのお力添えを頂いて成立しています。ここでは、ボランティアさんの活躍の一部ですが、4名の方のご協力を紹介します。昨年夏のスタディツアーに参加した経験を活かして今年の春に東京での勉強会を企画した高島さん、ICANの給食体験イベントの企画と実施に携わった東條さん、事務局ボランティアや学校訪問授業などに参加している伊藤さん、最近、スタディツアーの合同説明会やバザーなどのイベントに積極的に関わっている希代さんの報告です。

東京でのツアー勉強会を企画して

高島 麻衣子

2003年3月のスタディツアーに、東京から参加される方のための、事前勉強会を、池袋のインド料理屋で行いました。当日は、2名の参加者が集まってくださり、私をいれた三人でインド料理を食べながら、お話ししました。

主に、ツアーにおける注意事項の確認や、パヤタスで生活する住民たちが置かれている状況や問題、ICANの活動、目的等の紹介を、簡単ながらさせていただきました。私自身、ICANの活動やパヤタスの全てを知り、理解しているわけではないので、本当に自分が知っている範囲内のことと、自分がツアーで学んだことや考えたことを話しました。稚拙な説明にも関わらず、お二人ともとても熱心に聞いてくださり、また、自身の体験や旅行話、考えなども話していただき、とても楽しい時間をすごすことができました。

初の東京での事前勉強会を、企画させていただきました。当日の参加者の把握や、時間の調整など、間際までたいへんでしたが、無事に実施できてほっとしました。

今回の勉強会をとおして、こうして人とのつながりができていくんだな—と実感することができました。ツアーから帰ってきた時は、ツアーで学んだことをどのように活かしていけばよいのかと悩んだこともありましたが、今の自分にできることはとても限られていて、今自分がいる場所で何ができるかな—と考えたら、今回の勉強会のように、一人でも多くの人たちに、体験したことや考えたことなどを知ってもらおうことではないかと思いました。



二〇〇二年夏のツアーに参加した高島さん

そういう意味でも、この企画は自分にとって大変意味のあるものであったと思います。そして、このつながりをもっと拡げていけるように、今いる場所で発信していきたいと思います。

宝泉寺での給食体験プログラムを実施して

東條 敏和

5月3日、堀内さんと3人のお嬢さん、丹羽さん、細野さん、鈴木さん、松岡さん、私の ICAN のメンバーは、宝泉寺で、ミンダナオの給食・里親プログラムに関する展示や給食体験のイベントを実施しました。会場は、昨年5月にパヤタス写真展を開催させていただいた宝泉寺で、伊藤信道さんご一家と、ご近所の子どもボランティアの皆さんに、多大なるご協力をいただきました。

給食体験では、堀内さんが作ったフィリピン春巻き(サツマイモ入り)と、モンゴ豆スープをご飯にかけたもの、ジュース(マンゴ・カラマンシ・ココヤシから選択)を提供しました。

この日は天気がよかったことと、藤祭りで寺めぐりのウォークラリーを開催中で、宝泉寺もウォークラリーのポイントになっていたこともあり、ジュースがかなり人気でありました。また、給食についても食べた人の感想を聞いたら、「美味しい」と言っていました。

お昼以降は、時間が空いたので、私も他のボランティアの人たちも、藤祭り観光や地元の子ども達との交流をしました。特に印象に残ったのは、子ども達の話でした。学校でのいじめの問題や家族事情など、自分の小学生・中学生時代と照らし合わせて、考えさせられる場面もありました。全体的に楽しく、自分にとって有意義な時間でした。

東海高校での訪問授業に参加して

伊藤 めぐみ

5月26日(月)に東海高校を訪問し、生徒さん10人を対象に、「途上国の保健・医療」について、授業をしてきました。ICANからは松岡さんと私が参加、アスクネットの方もみえました。

始めに、「医療」ときいて思いつくものをそれぞれ紙に書き出してもらい、模造紙に張って、それぞれがどんなイメージを持っているのか分かち合います。病院、医者、白衣、など…;

その後、パヤタスの現状を私が、里村さんがフィリピンでお腹に怪我をした時の医療体験談とバランガイヘルスワーカー(その土地で医療に携わる人たち。薬草やまじないなどで治療をします)について松岡さんが、話しました。それから、私のホンジュラス(中米の国)での体験で、ハエに幼虫を背中に植え付けられた事件の紹介をして、その治療の仕方の国内での違いで医療格差のイメージを持ってもらいました。その後、質問や意見交換をして50分の授業を終えました。

私も今年3月までは高校生だったので、自分と近い年齢の生徒と授業をするということで、緊張もありました。更に、東海高校が男子校だと知って、どんな反応が出るのか予想がつかない、という不安もありました。しかし、後半の意見交換では自然と質問が出たのでうれしかったです。50分という短い時間の中で伝えられるものとはなんだろうという不安というか、疑問もありました。でも、里村さんの体験談や、病院に限らない医療のあり方で、和むこともでき、陽気なフィリピンの一面を知ってもらいながらも、意見交換では、私の説明し切れなかったパヤタスでの現状を鋭く質問してくれ、うれしかったです。なぜ、パヤタスで起きていることが日常となっているのか、不思議だと感じてくれたのだと思います。

意見交換では、「フィリピン政府は何かしないのか」「ちゃんとしたリサイクル工場を作ってそこで働けないのか」などの声がありました。「たいへんそうだ、かわいそう…」ではなく、この実情に疑問を持ってくれたことでこの一時間の授業がさらにこれからを透明にしてくれた気がします。それは、「なんで?」と思うことで、「何かしたい!」につながると思うからです。次につなげたくなるような一時間でした。私ももっと知りたい、勉強したいと勇気付けられました。

ツアー説明会やバザーに参加して

希代 翔

6月1日に、名古屋NGOセンターの企画で行われた「スタディツアー合同説明会」のお手伝いをさせていただきました。最初に各団体の説明、その後個別相談がありました。僕は、説明の際にパネルを持って、チラシを参加者に配るなど、しました。個別説明では、フィリピンに思い入れのある方、医療を学んでおり、パヤタスの現状に関心を抱かれた方々など、それぞれが積極的に質問していました。

休憩時間には、個人的に僕に話し掛けにきてくれた方もいらして、とても嬉しかったです。このイベントへの参加を通じて、ICANについて話すこと、そして松岡さん、市川さんの話を聞くことを通じて、ICANの良さをあらためて発掘でき、いい機会になりました。

また、6月8日には、重度障害者通所施設「(ぶな)の家」のチャリティーバザーに、ICANのブースを出店しました。参加者は赤井田さんと松岡さん、希代でした。バザー全体は寄付品の格安販売であったため、お客さんに立ち止まってもらうのに一苦労でした。

それでも、ぬいぐるみのかわいらしさやバティック布に目を留めてくださる方や、「『神の子たち』のビデオを見た」という方もみえ、ここでICANに出会えたことを喜んでくださる方もみえました。

松岡さんが休憩でいない時に、ICANについて質問されて答えた時が、僕にとって、一番緊張した一瞬でした。不足な点もあったとは思いますが、自分で説明ができたことも含め、ICANの活動を自分の中でしっかりとつかめつつある、と感じ取れた瞬間でもありました。

個人的に、パヤタスで制作されているかばのぬいぐるみが気に入ったので、祖母へのプレゼントがてら、購入しました。祖母も大変気に入って、しっぽの形から「もじゃ君」と命名していました。

このバザーでは、熱心な高校生のボランティアの子達をはじめ、いろいろな人と交流でき、の家に通所しているTさんとの会話も楽しむことができ、いい経験になりました。



バザー風景

事務局新スタッフ・インターンのご紹介

この春から、事務局に新しいメンバーが2名増えました。事務局で活躍する市川さん、川岡さんから、今後に向けての意気込みや抱負を聞かせてもらいました。

ICANの有給スタッフとして働くこと

市川 恵

こんにちは。4月から事務局スタッフとして働いております、市川恵です。学生時代は国際開発を勉強してきました。同時に名古屋 NGO センターでボランティアをはじめましたが、それをきっかけに色々な団体でボランティアをするようになりました。大学卒業後大学院に進み、はじめは、バングラデシュの NGO による地域開発を研究しようと思いました。

しかし「開発」というものを考え、自分なりの取り組みを考え始めたときに、私はまず自分の足元、特に日本ですべきことがあると感じ、国内で行う開発教育・国際理解教育分野で活動をするようになりました。フィリピンでも、まだ解決されない問題はたくさんありますが、それは日本でも取り組まないと解決されないのではないかと思います。「国際」というものを、点の問題ではなく、どうやって輪の問題として考えるか、ということ、自分の課題としても取り組んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。



ボランティアさんたちとミーティング
(中央左が市川さん)

ICANのインターンシップに参加して

川岡 美穂

みなさんこんにちは。今年5月からインターンをさせて頂いております、川岡美穂と申します。名古屋大学大学院国際開発研究科で国際開発について勉強しています。多国籍企業の社会的責任、難民や児童労働に対する実効的救済方法について学んでおります。

まだまだわからないことばかりですが、ICANにかかわっている、素敵な大人の人たちに多く出会えて、いろいろなことを勉強させていただいております。ICANの精神のもと、私にできることをやっていきたいです。



PRA 研修のひとコマ
(右端が川岡さん)

先日カマルさんのPRA研修に参加しました。参加とは何か？ 住民の参加とはどの人たちがどのようなレベルで活動できることが参加といえるのか？ 開発を行うときの現地での力関係や、住民が参加しやすい状況を作るにはどうしたらよいのかということ、ロールプレイやグループディスカッションを通して学びました。

これは開発全般はもちろん、ICANの今までの活動で通ってきたプロセスだと思います。新しい土地で新たなプロジェクトを始めるとき、また住民主体で何かをするときは有効な方法だと思います。もちろん、日本での活動でも必要なことで、プロジェクトにかかわる人たちが参加できるようにする一つの方法だと思います。

これからも積極的にICANやそれ以外の団体が行う活動に参加し、学んでいきたいです。

よろしくお願いします！！

<Summer Greeting Card を送ろう! >

給食プロジェクトの対象校、Bawing 小学校、Sarif Mucsin 小学校、P.Kindat 小学校、Upper Tumbler 小学校、Dadiangas East 小学校の子ども達を Summer Greeting カードで励ますカードキャンペーンを行います。

彼らへの励ましのカード作り、カード集めにご協力頂けませんか! ?

カードの形式

- (宛先) Dear Friend にして下さい。
- (差出人) 名前だけ英語で記述し、住所は書かないでください。
- (内容) 英語で書いてください。子どもたちの英語力が高度ではないため、文章は少なめで簡単な内容にとどめ、絵やシールなどが多いほうが喜ばれます。
- (形式) 既成の絵はがき、二つ折りカードのサイズでお願いします。
1 通ごと封筒に入れてください。
- (期限) ICAN 事務局に、7月15日必着で送って下さい。
- (宛先) 〒450-0003 名古屋市中村区名駅南 1-20-11NPO プラザ 2F ICAN
- (その他) 一通につき 40 円(切手可)ほどのカンパをお願い致します。

ご協力者のご紹介 ご協力ありがとうございます。 (2003 年 3~6 月)

<文房具> フィリピンの子供達への贈り物にしました!

山口さん、滝澤さん、高さん、小浜ライオンズクラブの皆さん、佐々木さん、川口さん

【集まったカンパ】 27,196 円

<商品券> 福富さん、黒澤さん

【集まったカンパ】 26,000 円

<書損じ葉書> 山村部(サンイシロ)の子供達の奨学金となります。

和田さん、桑原さん、吉村さん、小浜ライオンズクラブの皆さん、松岡さん

【集まったカンパ】 6,780 円 相当

<未使用テレカ> 現地小学校での給食費用になります。50 度数 1 枚で 20 人分の食費!

小林さん、堀越さん、山口さん、桑原さん、匿名、山鹿市社会福祉協議会の皆さん、小浜ライオンズクラブの皆さん

【集まったカンパ】 121,250 円 相当

<その他> 「神の子たち」上映実行委員会主催者西村さんより、115,515 円カンパを頂きました。

新規会員、会員継続者のご紹介 (2003 年 3~6 月)

<新規会員>

赤井田里美さん、大崎玄さん、大谷正秀さん、大塚美香さん、大平一誠さん、桑原茂さん、東條敏和さん、長谷川末喜さん、丹羽綾子さん、正尾美恵子さん、三澤リカルド雅幸さん、Sareen Dunlearyさん、渡邊さみ子さん

<会員継続>

青木啓明さん、有山惇子さん、安藤正さん、磯部政枝さん、梅津美佳さん、荻須健さん、鎌田啓祐さん、川角昌弥さん、神部陽子さん、菊野隆明さん、小林香苗さん、重富恵子さん、島村恵三子さん、高井信夫さん、武田康彦さん、立垣典子さん、田中明美さん、田村陽子さん、西崎淳子さん、中村希さん、花房範子さん、速水美智子さん、早川潔さん、濱田こはるさん、福井伸三さん、福澤勝義さん、藤森美里さん、堀直予さん、宮地厚さん、宮澤美帆さん、山崎佳奈さん、吉浦亜沙子さん、渡辺美香さん

ご支援、ありがとうございます!

初心者のためのフィリピン講座

ークイズ編ー

里村 京子

仕事の関係もあり、青年海外協力隊としての経験をもとにした国際理解教育関係の講演をさせてもらう機会が多いです。今日は、そのなかでよくやる「フィリピンクイズ」を紹介したいと思います。フィリピン流に4択で！！

- Q1 .フィリピンの島の数はいくつでしょう？
500以下 500～2000 2000～6000 6000以上
- Q2 .日本の島の数はいくつでしょう？(案外みなさん知らないものです・・。)
500以下 500～2000 2000～6000 6000以上
- Q3 .フィリピンの人がやらないバナナの食べ方は？
油で揚げて食べる 冷やしたり凍らせたりして食べる
ゆでて食べる スープなどに入れて食べる
- Q4 .フィリピンのマクドナルドに売っていないものは？(名称は多少異なります)
照り焼きバーガー フライドチキン スパゲッティ アイスコーヒー
- Q5 .マクドナルドでアルバイトする学生の日給は？
100円位 200円位 300円位 400円位
- Q6 .フィリピンの人111人に聞きました。(私が勝手に企画して実行した)「あなたの宝物はなんですか？」という問いに1番多かった答えは「家族」(50名)でした。では、2番目に多かった答えはなんでしょう？
教育 知識 愛 宗教 健康

余談「フィリピンタクシードライバー攻略法」

値段交渉・・・私はマカティで10分の距離を100ドルといわれた事があります(笑)

近い距離なら最初に値段交渉をしてはいけません。当たり前のように乗り込んで、当たり前のように「サマカティ(マカティへという意味)」のように「サ 場所」と言いましょ。このくらいなら発音は気になくて大丈夫です。下手に英語やタガログ語を駆使して交渉すると、逆に観光客だとばれてしまいます。メーターのスイッチを入れてくれない時は「メーター」と笑顔でメーターを指差せば大体OK(運ちゃんも苦笑い)。それでも「壊れている」なんていうドライバーの時はすぐに降りましょ！助手席に乗った時は勝手にスイッチを入れてしまうという奥の手もありますが、プライドを傷つけるような喧嘩は禁物です。

会話

乗るとすぐに「名前は？」「歳は？」「BFはいるの？」「独身？」などプライベートなことを聞いてきます。日本でいう「今日は暑いですね」と同じレベルの日常的な会話なのですが、日本人の私たちにはうれしくありません・・・。そんな時は逆に質問攻めにしてしまいましょ。人のことは聞くくせにあまり自分のことを聞かれるとうんざりするらしく、静かになります。なかなか楽しいのでぜひお試しあれ！

クイズの答え・・・1 . (7107) 2 . (6852) 3 . 4 . 5 . 6 .

ICAN の国際理解教育を学校で！



これまでに ICAN では

・シミュレーションゲーム

労働力を求めて都会へ移動しながら生活する家族を体験するもの

・ロールプレイ

パヤタスで暮らす家族や作業所のメンバーの生活・思いを綴ったもの

など、現地の実情に即した教材を新たに作り、それらの教材を使った授業も行いました。これらの教材は、問題を考えるための一つの材料です。ゲームやロールプレイなどを材料にし、その中で問題がどこにあるのか、その問題の構造はどうなっているのか、という問題解決学習につなげていきます。また、グループディスカッションや、意見をみんなで共有する時間を持ちながら、参加する生徒さんの感じたものを大切にしながら進めていきます。

更に、こうしたワークショップ以外にも、「NGO とは？」、「国際協力活動を通して見た、現地の状況」といったテーマでの講演もお引き受けしています。その際、写真や映像を使った視覚的な材料も持参し、イメージが描きやすくなるような講演にします。

また年間通した授業の中での取り組み例もあります。今年度は高校生と一緒に、「国際理解教育を実施するための教材開発」の授業を年間の取り組み（計4,5回程を予定）で行います。一回だけでは伝えきれない・理解できない問題を、何回かの授業を通して一緒に考えていきたいと思えます。

他にも「生きる」という年間テーマで学習を行っている学校では、様々な分野のひとつとして、別の国での「生きる」ということをテーマに、お話しする授業もあります。フィリピンの子どもたちの生活、またそうした国と日本とのつながりの中で「生きる」とはどういうことか、というお話をします。

国際理解教育で言われる問題の多くは、人の生活・社会・経済・文化や歴史といった、多くの要素、または構造上の問題が含まれています。それらを理解し、考えていくことは、どんな分野にもつながっていき、自分の問題として返ってきます。NGO として、こうした国際理解教育を是非学校で実施していきたいと思えます。学校関係者、または地域で教育活動をされているみなさま、お気軽に ICAN 事務局までお問い合わせください。

ICAN では、フィリピンの現場の実態や住民の声を取り入れた、国際理解教育の授業に取り組んでいます。（2002年13校で実施。）

国際協力活動を通して、日本とフィリピンの問題、社会の構造による問題などを、社会面・経済面から考えます。授業は参加型で、先生とも事前に話合った上で、生徒の皆さんの感じたことやアイデアを全員で共有しながら行っています。

* 学校へお伺いする際の人件費、交通費等は学校でのご負担をお願いしております。



東海高校でのワークショップ

<< 会員になって ICAN の活動を支えよう！ >>

(ICAN の活動は会費と寄付金で支えられています。事業会費・事業寄付金は 20% が運営費、80% が事業費となります。正会費、運営寄付金は全て運営費となります。)

< ご支持頂けるものを選んで御参加下さい。 > (1~4 は事業会費、5 は正会費です)

(1) 貧困家庭のための里親制度 (年会費 1 万 8 千円)

一定収入に満たない家庭の子どもに学費・学用品費・医療費等を支援します。1 対 1 の支援です。

(2) ミンダナオの小学校での給食提供 (年会費 6 千円)

少数民族の小学校で、先生や保護者の方と一緒に、栄養不良児に給食を提供しています。

(3) パヤタス支援 (年会費 6 千円)

ごみ拾いで生計を立てている住民が多くすむパヤタスで、職業訓練や医療支援を行っています。

(4) 山村教育支援 (年会費 6 千円)

山村サンイシロで、先住民のために、未就学児童やハイスクール生等の教育支援を行っています。

(5) ICAN の運営等の活動全般へのご支援 (一般会費 3 千円、維持会費 1 万円)

活動全般を支えて頂く正会員です。翻訳や事務局を手伝って頂くボランティアも募集しています。

PICK UP コーナー：里親会員

里親会員は、支援を通して子どもの成長を実感することができます。実際にミンダナオの子どもの支援に参加、交流している会員の声をご紹介します。



Jennie Rose ちゃん
(お母さんと妹と一緒に)

私の里子、Jennie Rose ちゃんは、9 歳のとっても可愛くて賢い女の子です。まだ小さいのにしっかりしていて、学校で勉強できることを、自分の未来を作り出すチャンスと考えています。

すごく感動しました。

新しい孫ができたようで、嬉しくて、彼女が一人前になるのを楽しみにしています。

里親会員 細野 富美枝

あなたも、ミンダナオの子どもたちを支援・交流して頂けませんか？

あと 20 名ほど募集中！

ご入会のお問い合わせは、ICAN 事務局まで (受付時間：火～土 13 時 - 17 時)

〒450-0003 名古屋市中村区名駅南 1-20-11 NPO プラザなごや 2F

TEL&FAX (052) 582 2244 E-mail : info@ican.or.jp ホームページ: <http://www.ican.or.jp/>

会費と寄付金の振込先

郵便振替) NPO 法人 ICAN, 00850-6-78233

UFJ 銀行) 名古屋駅前支店 普通 2361021 NPO 法人 ICAN (エヌピーオーハウジンアイキャン)

E-BANK) 支店番号 210 口座番号 7001258 特定非営利活動法人 アジア日本相互交流センター

JAPANNET BANK) 店番号 001 口座番号 4005809 特定非営利活動法人 アジア日本相互交流センター

点字資料が必要な方はお申し付けください。